



2018 / March

# 3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2014年活断層フォトコンテスト作品 入賞:「海に戻った田園地帯」 千葉達朗・神奈川県 東北地方太平洋沖地震(モーメントマグニチュード9.0) 石巻市谷地中

作品説明:2011.3.11の地震では、新北上川(道波川)沿いに津波が遡上し、長面地区や谷地中地区の広い範囲が水没し、海の上になった。これは、広域の地殻変動に伴う沈降と、津波による地盤侵食の影響と考えられる。満潮時には、完全に海とつながり、青々とした海面が広がって、かつて水田が広がっていたところとはとても思えない。この写真の対岸にみえる北上総合支所は、想定宮城県沖地震のシミュレーション計算による津波到達高度よりわずか50cm高い地点に造られた「リアプリー」の施設で、津波の避難所として50名以上の人が避難していた。津波は木造2階建ての施設を超える高さであったため、ここでの生存者は5名以下であった。

©日本活断層学会

2018 / April

# 4

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

2014年活断層フォトコンテスト作品 優秀賞:「地震時に隆起した震源域直上の島」 西村裕一・北海道 ソロモン諸島、ランガ島、ケアラの海岸

作品説明:2007年4月2日(現地時間)、ソロモン海プレートと太平洋プレートの境界でマグニチュード8の地震が発生した。断層の境界がランガ島とシンボ島の間にあったため、ランガ島は島全体が最大3.3m隆起、わずか9kmしか離れていないシンボ島は1mほど沈降した。写真はランガ島の西岸、ケアラという集落に面した海岸。ここは約2m隆起し、珊瑚礁が海上に露出した。撮影日した4月17日には、珊瑚は形状を留め、魚の死骸も残っていた。写真の左奥が3.3m隆起した島の南端部で、右奥の島が沈降したシンボ島である。この地震では津波が発生し、シンボ島などでは壊滅的な被害が生じ、一方、ランガ島は隆起したこともあって被害はほとんどなかった。

©日本活断層学会



2018 / May

# 5

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

2014年活断層フォトコンテスト作品 入賞:「国内最大級の市之瀬断層:逆傾斜の高位段丘と中・低位段丘」 豊蔵 勇・愛知県 糸静線活断層系 南アルプス市市之瀬

作品説明:市之瀬断層は、糸魚川-静岡構造線活断層系の南端部の断層帯で、甲府盆地西縁部の南アルプス市を南北に延びている。この写真は、同市市之瀬付近に広がる市之瀬台地上にある「あやめが丘」住宅地をのせる高位段丘面を扇頂部から見たもの。この高位面は、上流側に向き逆傾斜しているため、あたかも甲府盆地側に飛び降りるジャンプ台を見ているようである。また、組写真の2枚目(ホームページ参照)では、あやめが丘住宅地ののる高位段丘面は、下流側傾斜の低位段丘面上に広がる水田の水平面と比べると、ほぼ同じかやや上流側傾斜であることがわかる。これらのことから、逆断層運動が極めて活発であったことが示唆される。

©日本活断層学会

2018 / June

# 6

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2014年活断層フォトコンテスト作品 入賞:「バブアニューギニア、ヒュオン半島のサンゴ礁段丘群」 太田陽子・東京都 バブアニューギニア、ヒュオン半島

作品説明:4枚組作品中のこの写真は、海面変化と地殻運動の和として形成されたサンゴ礁段丘の典型である。バブアニューギニアのヒュオン半島空撮写真である。数段の小さい段丘面は、おもに更新世後期における地震隆起によって形成されたものである。その他の写真(当学会ホームページ参照)は、テワイ河沿岸で観察される多数の段丘および更新世の段丘群のもの。テワイ河沿いで、隆起三角州の内部構造が観察できる。また、その他の写真にある更新世の段丘も、多段化しており、個々の段丘、離水ノッチは地震による隆起の跡を示す。

©日本活断層学会